

まちの未来創造コンテスト

『環境に配慮した過疎地区の活性化について』

愛知県立豊野高等学校

2年5組18番 宇野萌夏

2年5組28番 鈴木実百華

現在、豊田市は人口が集中する中心部と人口流出や少子高齢化で悩む過疎地区に分かれている。現在の豊かな自然を守りながら多くの観光客を集めることができるエコな温泉街を過疎地区に作ることを提案する。

豊田市は、市町村の合併により、自動車産業を中心とする産業や人口が集中する都市部と、森林を始めとする豊かな自然を有する山間部を併せ持つ広大な市となった。都市部は人口、市域の都市規模拡大で活力を増大しているが、一方、小原・足助・旭・稲武の4地区が過疎地区とみなされている。過疎対策は、道路の農林地、情報通信基盤、水道施設など各分野における整備は進んでいるが、人口流出や少子高齢化の進行といった課題があり、今後も対策を進める必要がある。そこで、現在の小原・足助・旭・稲武の良さを全国にアピールし、より観光のしやすい地区にすることで、観光客を多く招き、雇用を増やすことを提案する。

① 現在、全国をみても廃業宿泊施設を多く抱える温泉街も少なくない。こんな時代だからこそ活気ある温泉街を作るのは豊田市の売りになるのではないかと考える。豊田市にも旭地区には600年あまりの歴史を誇る愛知県最古の天然温泉である笹戸温泉を始め、小渡温泉と柳野温泉があり、稲武地区には、『どんぐりの湯』という温泉がある。これらの温泉を、現在の宿泊施設を中心に温泉街にすることで宿泊施設や地元でとれた農産物・特産物を買うことができる店舗を増やし、夜は矢作川沿いをライトアップするなど多くの観光客を招きたいと考えている。また、魚の手づかみ体験など自然を生かした子どもたちも喜べるイベントを季節毎に開催することで家族連れも多く招きたい。

② 観光客の増加による環境問題対策をおこなう

i) シャベるゴミ箱の設置

ゴミを入れたら『ありがとうございます』や種類の違うゴミを入れた場合『ペットボトルはリサイクルボックスへ』などシャベるゴミ箱を温泉街や観光地に設置する。

ii) 無料水素バスで小原・足助・旭・稲武の4地区を結ぶ。

現在、水素を車に搭載することがコストの面でも技術面でも難しいとされている。しかし、豊田市には世界に誇れるトヨタ自動車があるのでタイアップできたらと考えている。

③ 豊田市中心部で『リサイクルポイント』の導入

ペットボトルや缶・瓶をリサイクルセンターに持っていくことで、リサイクルポイントを貯めることができる。このポイントは、過疎地に建設予定の温泉街の宿泊施設を格安に使用することができる。これにより、県外の人だけでなく、豊田市内中心部に住む人々も過疎地に行く機会が増えることが期待される。

④ 観光客が自ら考える観光ツアー

現在は交通の便が悪いことから、自家用車のない方や高齢者・障害者の方が過疎地の温泉街に行くことが難しくなっている。そこで、豊田市駅まで電車や車で来れば、その後は各地区の拠点となる地点まで直通バスで行くことができるようにする。また、各拠点からは周回バスを走らせることにより、小原・足助・旭・稲武の各地点を観光客自らが計画して観光することができる。各地区で農業体験や和紙作りの体験などができる施設を作ることにより外国人の集客も期待できる。